

# 2018 年産総研つくばセンター一般公開における 地質調査総合センターの活動報告

野々垣 進<sup>1)</sup>・斎藤 眞<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

2018年7月21日(土)に産業技術総合研究所つくばセンターの一般公開が開催されました。猛暑の中での開催となりましたが、過去最高となる6,000名以上の方にご来場いただきました。今年は、重さの単位の改定が予定されていることから、計量標準総合センターを中心とした特集「はかるがきわまる！」が生まれ、国際単位系についての講演や展示、スタンプラリー等が行われました。地質調査総合センター(以下、GSJ)からも例年通り、多数の研究者から講演やコーナー出展等が行われました。ここでは、研究企画室が代表して、GSJが関与した講演・出展等について簡単にまとめたいと思います。

## 2. 講演・特別展・サイエンストーク・見学ツアー

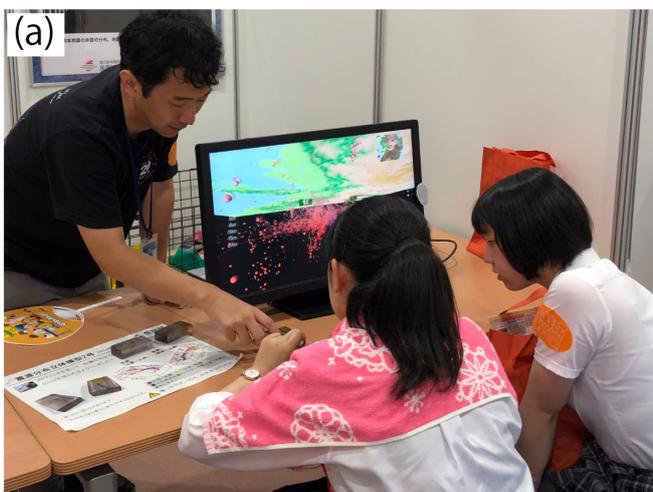
今回の一般公開では、地質に関わる次の3つの講演がありました。

- ・厚紙模型で日本列島誕生を再現！(発表者：地質情報研究部門 高橋雅紀氏)

- ・縄文時代の霞ヶ浦周辺の環境と貝塚(発表者：上高津 貝塚ふるさと歴史の広場 一木絵里氏)

- ・関東平野を作り上げた川と海(発表者：地質情報研究部門 中島 礼氏)

1つ目の講演では、300万年前ごろのプレート運動と日本列島のなりたちについてのお話が提供されました。2つ目と3つ目の講演では、地質標本館における特別展「関東平野と筑波山—関東平野の深い地質のお話—」に合わせる形で、関東在住の方に馴染みの深い霞ヶ浦の水域環境と、日本一広い平野である関東平野のなりたちについてのお話が提供されました。これらの他にも、サイエンストーク「化石を知ろう—みる・触る・そして考える—」(発表者：地質情報研究部門 利光誠一氏)では、地質標本館に所蔵されている化石標本に触れながら、大昔の生物や地球環境について学ぶ機会が提供されました。また、地質学ではお馴染みの岩石薄片試料について学ぶ見学ツアー「石に光を通す—岩石薄片の世界—」も催行されました。一部の講演では、当日の案内がうまく行き届かず、参加者が少なくなりそうな事態になりましたが、最終的にはどの講演・ツアーも盛況のうちに終えることができました。



第1図 サイエンスコーナーの様子。(a)「地震を見る 地震を聴く」、(b)「断層」を基礎から！」。

1) 産総研 地質調査総合センター 研究戦略部

キーワード：一般公開、サイエンストーク、チャレンジコーナー

### 3. サイエンスコーナー・チャレンジコーナー

例年、子ども達はもちろん、保護者の方々にも大人気のサイエンスコーナーとチャレンジコーナーも多数出展されました。サイエンスコーナーでは

- ・物理探査から見た関東平野の地下構造（活断層・火山研究部門）
- ・地震を見る 地震を聴く（活断層・火山研究部門）
- ・「断層」を基礎から！（GSJ）
- ・ジオラマと3D模型でのぞく地質の世界（GSJ）

の4件が出展されました（第1図）。チャレンジコーナーでは、

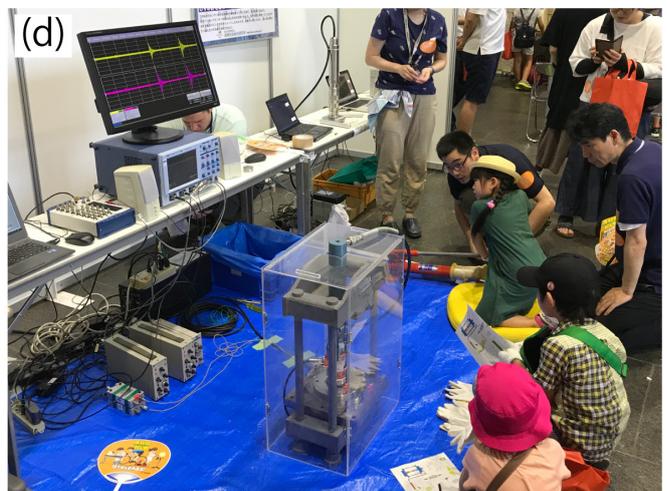
- ・噴火にチャレンジ！（活断層・火山研究部門）
- ・地震のゆれを測ろう！（活断層・火山研究部門）
- ・リアル砂金探し（地圏資源環境研究部門）
- ・石を割ってみよう！（地質情報研究部門）

- ・模型実験で断層の動きを観察しよう！（活断層・火山研究部門）
- ・地震の起きるようすを目の前で見よう（活断層・火山研究部門、地圏資源環境研究部門）
- ・科学からくり（地質情報研究部門）

の7件が出展されました（第2図）。チャレンジコーナーは体を動かして地質を学んでいただく内容のものも多いためか、小さい子ども達にも大盛況でした。特に、地質標本館入口前で開催されたコーナー（上記7件のうち前者4件）については、いずれも夏休みに入ったばかりの子ども達が、屋外で汗だくになりながら夢中に楽しんでいる様子が印象的でした。

### 4. おわりに

以上のように、GSJからは今年も多数の出展があり、



第2図 チャレンジコーナーの様子。(a)「噴火にチャレンジ!」、(b)「地震のゆれを測ろう!」、(c)「石を割ってみよう!」、(d)「地震の起きるようすを目の前で見よう」。

参加者の皆様には有意義な時間を過ごしていただけたのではないかと思います。また、今年アウトリーチ研修の一環として、GSJの新規採用職員も解説員を務めており、展示者側にとっても有益なイベントになりました。

今回の一般公開は、これまで以上の猛暑の中での開催となり、熱中症等が心配されていましたが、無事大きな問題もなく終わることができました。これは、周到な準備をしていただいた事務局や出展者の皆様、またご参加いただいた皆様の心がけの賜物だと思います。参加側も出展側も、

楽しみながら科学に触れられるこのような機会を続けていくことで、科学のすそ野が広がっていくことを期待します。これからも皆様からの変わらぬご協力のほど、宜しくお願ひ申し上げます。

---

NONOGAKI Susumu and SAITO Makoto (2018) Report on Activities of Geological Survey of Japan in the AIST Tsukuba open house 2018.

(受付：2018年10月9日)